

処理手段はその他の各手段と接続され、各手段に対する制御を実行する。記憶手段は処理手段の処理対象データや処理結果データを記憶する。状況検出手段の出力より、携帯情報機器の設置状況が異常（例えば、盗難状態）と判定された場合、記憶手段内の重要データを無線通信手段を用いて、他の装置に送信し、退避させる。送信が完了するか、送信が中断した場合、記憶手段内のデータを消去する。したがって、携帯情報機器が盗難にあっても、データ退避ができ、データ退避完了後あるいはデータ退避不可能状態になればデータ消去ができるので、データ保護と機密保持が可能になる。